

平成 26 年 3 月 20 日
野菜業務部直接契約課

第 22 回加工・業務用野菜産地と実需者との交流会（国産野菜の契約取引マッチング・フェア in 東京）の概要について

3 月 12 日（水）、東京国際フォーラム（東京都千代田区）において、標記交流会を開催しました。その概要は、以下のとおりです。

1. 出展者・来場者

今回は、全国各地から 112 の事業者・団体が出展し、このうち初出展者は 32（うち、生産者・生産者団体 16、流通・加工業者 12）でした。

また、昨年引き続き、JAグループ主催の「国産農畜産物商談会」と同日開催で実施したところ、相乗効果を得て、来場者数については特に外食等の実需者が増加して、昨年を上回る 1,263 名に達し、積極的な商談が行われました。



- ・ 出展者数 112（うち、生産者・生産者団体 57、流通・加工業者 32）
- ・ 来場者数 1,263（うち、小売 113、商社・卸・流通 375、食品加工・製造 113、外食・中食・給食業者 162、マスコミ 44）



2. 特別商談会

マッチングの成果をさらに後押しするため実施している「特別商談会」（野菜ビジネス協議会及び青果物カット事業協議会の会員企業等と出展者を結びつける、個別・予約制の商談会）には、



実需者9社に対し27の生産者等が参加し、延べ60件の商談が精力的に行われました。

3. 加工・業務用野菜対策についての説明会

会場内に設けたセミナー会場では、農林水産省の担当官と連携しながら、機構職員により、リレー出荷の特例措置を含む加工・業務用野菜関連対策について、説明会を行いました。



4. 野菜産地と実需者とのセミナー・パネルディスカッション

また、セミナー会場では、野菜ビジネス協議会主催の「野菜産地と実需者によるセミナー・パネルディスカッション」が開催されました。産地側及び実需者側からの話題提供ののち、



（一社）JC総研客員研究員の仲野隆三コーディネーターと、産地側2名（（有）トップ

リバー代表取締役社長 嶋崎秀樹氏、神谷農園 神谷光男氏）、実需者側2名（サンプー食品（株）取締役常務 野口修氏、横浜丸中青果（株）取締役 岡田貴浩氏）によるパネルディスカッションが行われました。そこでは、契約出荷を



実施するうえでの産地指導のポイントや、不作時における産地側・実需者側双方の対応等について活発な意見交換が行われ、会場は立ち見が多数出るなど大いに盛り上がりました。

5. 試食コーナー

出展者が持ち寄った「自慢の野菜」をサラダバー形式で来場者が自由に試食できるのが、この「試食コーナー」。今回は、これまでの来場者からの要望に応じて、野菜のドリンクバーを新たに設けたところ、35の出展者が60種以上の野菜等を持ち寄り、多彩な種類のサラダや野菜ジュースを求める来場者で、終日大盛況でした。

同コーナーは、出展者からも「出展物のPRを効果的に行うことができた」など、商談の足掛かりを得る場として好評でした。



6 アンケート結果

回答数 401 件のうち、94%の方から「役に立った」との回答があり、高い評価を頂きました。その理由としては、「情報交換ができた」(36%)、「参考となる情報が得られた」(30%)、「興味を持った相手先があった」(23%)といった声が多く寄せられました。

○来場者からの交流会に対する主な意見

良かった点	今後の改善、要望等
<ul style="list-style-type: none">・説明が丁寧で、商品情報や単価など具体的な情報を知ることができた。・知りたい産地情報を提供してもらえた。・品種が豊富、珍しい野菜が多かった。・売れ筋や試験品種の動向がよくわかった。・試食コーナーは、どの野菜も生産者の努力が感じられて、とても美味しかった。	<ul style="list-style-type: none">・いろいろな地方で開催してほしい。・出展者（特に生産者）を増やしてほしい。・物流についての提案がほしい。・ドリンクコーナーを拡充してほしい。・メニュー提案や調理実演を行ってほしい。・JAグループの商談会との連携を推進してほしい。

※第22回交流会の開催概要（詳細）については、当機構が発刊している野菜情報5月号に掲載します。

URL : <http://www.alic.go.jp/>

野菜情報

で検索